

まえがき

女性が人生を楽しむ価値観や過ごし方は、時代を追うごとに変化し続けています。趣味や仕事の在り方も様々です。誰しも、の人生に転機が訪れるときがあると思います。その都度、あらゆる選択肢の中から答えを見つけださなくてはなりません。

何が自分にとって、正しいのか、幸せだったのかは、人生を終えるときにわかりません。大好きなことを趣味に持つ、その延長線で仕事となり、自分が考えたモノや作ったモノが誰かの元に届く→大切にしてくださる→声をいただく→共有できる場を持つと、ひとりで楽しんでいたことが、さらに広がりを見せ、今まで見えなかった、知ろうともしなかった世界が見えて、知るようになり、人生に幅ができて、豊かに感じられるようになります。

私自身にもいくつかの岐路があり、選択を迫られたことがたくさんありました。その中でも、一番の転機は、悩みに悩み抜いて、長い企業勤めを辞めて、次に何をするのか？ と考えはじめたときです。

しばらく、専業主婦に戻り、一度、再就職を試みました。今まで経験してきたことを生かせるような自分がやってみたい職業に応募しても、年齢や子どもがいることで、再就職の道は、険しいと強く実感しました。

じっくりと考える時間を持たたことで、「もし、好きなことを仕事にできれば、少々の困難なことでも乗り越えられ、家族との時間をもっと大切にできるかも」と考えるようになります。

「寄せ植え教室を開きたい」という夢の選択をするまでも、いくつかの選択肢があり、家族と話し合う場が幾度となくありました。

趣味を仕事にするのは、中途半端な気持ちではできませんし、最初のうちは、少なくとも、リスクを負うことにもなります。果たして、子育てとも両立してやっていけるのか？ しばらくの間、自問自答の日々が、続きます。

「ガーデニング、寄せ植え」という言葉をよく知らない家族が、心配するのは当たり前のことです。しかし、私なりの将来に向けてのビジョンを話し、相談していくうちに、納得してくれ、私の毎日の過ごし方をそばで見ている、次第に応援してくれるようになっていきました。

会社員時代、中堅と呼ばれる時期に差しかかったときに子どもを授かりました。子育ても仕事も同時に並行して頑張っていきたいと貪欲でした。世の中には、近くにご両親もいなくて、ご自身だけで頑張られている方もたくさんいらっしゃると思います。

私は、恵まれていました。近くに実家があり、助けてもらったことは数知れず、サポートなしでは、仕事を頑張れなかったと思います。

子どもの保育園への送り迎えなどを頼らせてもらいながら、仕事に専念させてもらっていました。しかしその頃、父の病気が発覚し、両親を頼れなくなってしまいました。一気に重心は傾き、生活も心のバランスも崩れていきました。人生には、突然、思いもよらぬ選択を迫られるときがあります。

そんなときに、私の心のバランスを整えてくれたのが、**ガーデニング**でした。週末、時間を見つけては、子どもを連れて、園芸屋さんを巡ったり、こんな寄せ植えを作りたいなあ。花壇には、こんな花を植えてみよう。と想像したりしながら、花を買ひ集めてきては、家の小さい庭で、季節ごとに何鉢も気持ちの赴くままに寄せ植えを作りました。

土を触って、魅力的な花たちを紡ぐことで、普段のストレスから少しの間、解放されていく気がしました。いつしか、ガーデニングが、生活に欠かせないものとなっていったのです。

ガーデニングは、ある程度の広さがある庭がなければ、できないのでは？ すぐ花を枯らしてしまうから、お世話をする時間がないから、という先入観で始めない方がいらっしやるとしたら、まずは、外を眺められるいつものお気に入りの場所に座ってみてください。

そこから眺める景色が、コンクリートで埋め尽くされていたり、空洞だったりしたら、ほっとしますか？ 癒やされますか？ 心を休める自分だけの場所を作ってほしいと思います。前日には、蕾だった花が、次の日には、綺麗な花を咲かせています。

雪で埋もれて何も無いように見えていたはずの場所に、ひょっこりと芽吹き、植物たちは、私たち以上に季節の移り変わりを敏感に感じています。小さい空間でも季節の花を育てることによって、日本特有の四季が感じられます。忙しい日常にこそ、気づいてほしい、立ち止まってほしい特別な潤いのある時間を過ごしていただけたらと思います。

趣味としてのガーデニングをしはじめて、すぐに楽しいと感じたのは、寄せ植えというコンテナガーデンの存在を知ってからです。

色々な選択肢の中から寄せ植え教室開催を軸に活動していこうと決めたのは、陽が差し込み、外に椅子1脚でも置ける空間さえあれば、誰にでもトライしてもらえる趣味であり、季節の花を組み合わせで作る数千、数万通りの寄せ植えというものが、日常に癒やしや楽しみをもたらしてくれる存在だということを知っているからです。

ファッションコーディネートを楽しむときと同じように、花同士の組み合わせだけではなく、鉢と花の組み合わせや相性によっても雰囲気を変えることができます。個々の心情や季節イベントによっても、作ってみたい花色や鉢のイメージを変えてみると寄せ植えの楽しさが増します。

ぜひ、一度やってみたいと思われる方や、興味を持って趣味にしたいと思われる方は、ガーデニングや寄せ植えの提案を参考に、さらにみなさんの自由な発想で、発展させていただきたいと思います。

寄せ植えに欠かせないのが、毎年のように生みだされる新しい品種の花たちです。そして天候に左右されながらも、魅力的な花たちを育ててくださっている育種家さんや生産農家さんたち、その花たちの流通に関わってくださっている方々の存在です。

ガーデニングを趣味として始めてから約10年経ちますが、色や花姿、性質までも品種改良が重ねられ、開発から試行錯誤の後、育てられて、綺麗な状態で私たちの手元に届きます。

ガーデニングを楽しみ続けられるのは、そんな方々の日々の努力があってこそだと知っていただくことによって、育てる花たちの価値を理解し、より愛情を注げる気がします。

もっともっと素敵に見えることもない花たちが、存在していることを知っていただくと、寄せ植えの世界も広がります。ひと昔、見た庭の景色とは、ずいぶん変わってきていると感じていただけるはずです。

微力ながら、そんな生産農家さんたちとガーデナーさんとの橋渡しができる存在でいたいと思っています。

すでにガーデニングを楽しみ、魅力を知っているという方の中に園芸、ガーデニング関連の花屋さん、寄せ植え教室をしてみたいと考えられている方がいらっしゃるのならば、何の礎もないところからどうしていけばいいのだろう？と迷われているでしょう。

自分のやりたいことや得意なこと、好きなことを仕事にしたい……。仕事にできるかどうかは、その商品やサービスが、価値あるものと認められて求めてくださるお客様がいてこそ成り立ちます。

商品を仕入れて、手を加えて、販売をするという行為だけでは、趣味の域を脱していません。趣味を仕事にするのは、決して容易なことではありません。「好きなことを仕事にしたい」と望んで、歩んでいくうちに、どの道に進んでいいのかわからなくなるときが来ますし、頭打ちになる場面が幾度となくやってくるでしょう。

けれども、苦難だけでなく、喜びに変わるようなやりがいを見つけることができれば、好きは永遠に続き、仕事として向き合っていけると思います。

私がガーデニングを仕事として意識し、始動した頃は、実店舗やネット販売をするガーデニングのお店は存在したものの、無店舗で活動されている方は、わずかだったと記憶しています。

月日は、経ちましたが、私自身もまだまだ発展途上で、日々、格闘中です。現在まで色々な経験や周りの素敵な人たちとの出会いを通して、寄せ植え教室主催と運営をするようになり、たくさんのレッスン生さんたちとの交流をしたり、寄せ植えのオーダーもいただいたりするようになってきました。

寄せ植えが好き、これから、ガーデニング関連のお仕事を希望されている方は、

もちろんですが、それに限らず、みなさんの「好きなことを仕事にしたい」コトやモノに当てはめて、悩んで立ち止まったときに本書を開いていただけたら幸いです。

Snow bloom garden 河埜 由紀 (かわの ゆき)